



このむ

自動車の荷馬車壓迫悲劇

事實 荷馬車挽子某、二百五十圓貯金したが、いつ

までも人の車を挽いてゐては出世が出来ないと思つて三十圓借金して馬を買ひ荷馬車の自營を始めた。ところが貨物自動車に壓迫されて思ふやうに商賈が成立たない、夫れに一方借金の返済を責められるので已むなく唯一の資本である馬を賣りに出たまゝ家へ歸つて來ない、そこで残された

盲目の妻は家財を賣つて生活を續けたが、夫はいつまでも歸らないので盲目は一歳になる次女を背負つて六歳の長女に手を引かれながら夫の捜査を警察に願ひ出た。(時事新報所載)

評言 何と言ふ人生の悲惨事であらう、近代文化の表徴——自動車が産んだ悲惨事とも言へやう、併し此慘事を無くする爲に商賣仇——貨物自動車の通行を禁止する譯には行かぬ、日稼業者の資本家希望、社會主義者に言はしめたる資本主義的根性を出すから一家が悲惨な目に遭ふのだと評するだらう、併し私はそう言ひ度はない、日稼をし

ても其の勞働に依つて得た其の利得は、馬を所有する資本家に搾取するものに氣附いて生活向上の爲に馬を買つた馬子は、假令其撰むだ途が貨物自動車營業の成立つて行くやうな箇所て荷馬車の自營を自論むだ其のことに誤があつたにせよ馬子の意氣を買つてやらねばならぬ、世の弱者は之を救済して共助共存の實を擧げねばならぬと言ふけれども自覺し向上するの決心がなくなつて無爲に遊ぶ貧乏人までを社會政策の美名の下に救助してやる必要がない、馬子が誤りなりにも奮發したのは資本家の利益搾取であつた、利益搾取がなくて平等に利益配分が行はれてゐたら馬も買はなかつたであらう、借金もせなかつたのだ、此點が改良されたら馬子も家族三人を扶養することが出来たのであらう、資本主義制度の罪、此一家迄を苦しめてゐる何とか改造するのが急務だ。

夫に捨てられた家族三人、盲目の妻に二幼女、之は何としても社會が救助してやらねばならぬ、之を爲すことが眞の社會事業である、馬子は家に歸つたであらうか家族は救

助されたであらうか。

自動車のお宿

事實

帝都丸の内の附近、丸ビルや海上ビル其の他大會社の前には大道路も狭いばかりに自動車が並んでゐる。

そこで丸の内の大家さん三菱が千五百坪六層樓の鐵骨鐵筋造りの自動車ビルヂングを建てることゝ爲つた、是が完成したら送り迎への自動車や待合せの自動車が此自動車倉庫へ收容される(東京日々新聞所載)

評言

道路は一般人間交通の用に造つたものだ、自動車置場の爲に造られたものでは無い、夫れに丸ビルや海上ビルに借室してゐる所謂大資本家の幹部が、前面の公道に朝から晩まで自動車を並べて置いて澄した顔をしてゐる。

八ヶ間敷屋の警視廳も小店の小僧には交通整理を八ヶ間敷言ふが、こゝ丸の内にある自動車にだけは目を瞑つてゐる何と言ふ矛盾な事であらうか、市民は重い市税を負担し彼等の自動車の爲に幅の廣い道路を造つた譯では無い、自分

等が通行する爲に、使用する爲に造つた道路だ、いかに、資本家が横暴を極めても弱貧者は黙つて居らなければならぬ世の中とは言へ、市民負擔の下に出来た道路を日中自動車置場に使用することだけは御免を蒙りたい。

一體自動車を所有する者は自ら置場を持つのが當然だ、客の來集を目的とする停車場乃至ビルディング若は劇場なども當然自動車置場を造る義務がある、其の義務を果さ無くつて公道を借用し執務中觀劇中自動車を留め置くことは道路の一般使用の程度を超過して道路を私占する占用だ、夫れに占用の手續も探つてゐない、三菱の計畫した自動車ビルが完成する迄自動車置場の好適地が無いことなら仕方がないから道路の占用を許可して占用料を徴收することだ、そうして涸竭してゐる道路維持費の財源に充當するのが得策だ、夫れが出来ないなら自動車を置いてゐる道路の效用を廢止して賣拂つて終ふこと、夫れが善政だ。

自動車置場のことならモト一つ、事業費が窮迫してゐると言はれてゐる復興局、餘程豫算に剩餘を生じたと見へ、

上野停車場前に自動車の駐車用に供する廣場を設けることに決定したとやら、是等は鐵道改良費豫算の支辨に屬するものと思つてゐたら復興道路費支辨、此調子で地下鐵道の昇降口にも廣場を拵へて貰ふが良い、之を以て自動車駐車場費を道路費支辨に移した嚙矢とするが、可い面の皮は市民——國民である。

京濱國道で轢殺

事實 二十三歳の男、自動車で京濱國道を通行中後から疾走して來たトラックに追突され自動車の下敷となつて絶命した、妻某、死體に取り縋つて失神したので警察で保護してゐる(東京日々新聞所載)

評言 毎日起る道路交通事故の一形態に過ぎないが、是も亦一悲惨事たるを失はない、交通事故の原因と、責任事實の夫れに就ては何れに過失が在つたかは別として、通行者の不注意と道路施設の不完備が一般交通事故の原因である、通行者も交通に注意するが可いが道路管理者も交通

事故の發生を妨ぐだけの用心が肝要だ、こゝ改築された京濱國道には白線で高速度と緩速度車輛交通の區劃がしてある筈、何れの區劃に於て事故が發生したかは責任問題の重大點とならう、併しながら東京府の道路管理者は一度塗つた白色線は永久のものとして心得てゐるのが常態で、定めし此場合此箇所には於てもさうであつたらう、さうなれば法律上に於ては責任がないにしても、道路管理者は道徳上責任の一半を負ふべきである。

鈴なり電車で重傷

事實 横濱市電車、外に溢れる程の乗客を満載して進行してゐたが、軌道工事の爲に線路の傍に積んであつた敷石に乗客が引かゝつて四名人事不省生命危篤（東京朝日新聞所載）

評言 軌道の乗客には定員がある、定員以上に乗客を満載したときは軌道經營者は法規違反に依つて制裁を受くるばかりか、因つて人を損傷した責任を負擔するは當然だ

併し乗客が制止を肯ぜないで乗車したものとすれば乗客にも責があつて彼是相殺さるるものだ、車體外の幅員も軌道建設規程の規定する所だが時に勵行されてゐないのがある建設規程だから建設のときに規定の幅員を保つて居れば可いなぞと屁理窟を竝べる連中もあるが、假令其の屁理窟が通るものとしても、なぜ建設のときだけにでも夫れを要求したかを考へたら屁理窟の屁理窟である所以が判るであらう、夫れは兎に角、其の規定が必要とせらるゝのは道路交通上の要求に依るので軌道自體の要求に依るのである。であるから軌道に直接して敷石を積むしておくことは建設規程の趣旨を破つた仕業と言はなければならぬ、之に就ても、軌道經營者に責任があるのだ、横濱の此事件を對岸の火災視してはならぬ、軌道經營者の足許に日夜表はれてゐる事實だ注意を必要とする。

軌道建設規程が車體外幅員を規定した細心な用意に引き代へ、道路取締令は電車を追越す場合だけを規定して、電車と他の車輛との間隔に就て何等の規定を設けなかつたの

は頗る遺憾とすることで規則の改正を希望して已まない。

東京市營圓太郎擴張

事實 經營難に陥つて行き詰りの状態であつた東京市營軌道、従來は軌道の補助機關と言ふ意味で、圓太郎事、乗合自動車營業を經營してゐるが、此度は方針を變更して大圓太郎網を設定し軌道の代用機關として昭和四年度以降五ヶ年間に八百七十五萬圓で六間巾以上の道路に乗合自動車を運轉することゝ爲つた。(東京朝日新聞所載)

評言 路上交通が軌道から乗合自動車へ變化して來るのは當然であつて、之に思ひ附いたのは頭の餘り働かない東京市當局としては大出來と評すべきだ、定めて現在の乗合自動車收入に眼醒めたのであらう、實際市電は澤山な軌道特許線を持つてゐるが現在軌道百哩の維持修繕にさへ手が廻らない財政の難境に在つて、新線を敷設するやうなことは百年河清を俟つの類だ、私は今の軌道も撤廢して自動車經營をやつて貰ひたい氣がする、地下鐵道が開通したら

必ずや其の議論が擡頭するであらう、電車の軌條と路面鋪裝が兩立しない、自動車は増加して軌條沿路面を破壊する、コーなれば軌道經營の成立たないのは當然だ、軌道經濟から一般會計へ繰入れてゐる繰入金を廢止しても、軌道經濟の路面鋪裝負擔を輕減しても駄目だ。

東京市營の軌道が方針を一變せむとしてゐるとき、今まで電車のなかつた中以下の都市で軌道經營を目論む者の多いのは餘りに時勢を解しない連中だ、内務省が此意味で軌道の出願に對して再考を求めてゐるのは先賢の明がある。

市電車掌の慘死

事實 馬方某が鐵材を荷馬車に積んで新高橋の坂路で馬が進まず悩んでゐた、之が爲に電車が立往生となつたので市電車掌某、馬方に應援して車を軌道外に引き出さんとした利那、搭載の鐵材が車掌の頭部に落ちて絶命した。(東京時事新報所載)

評言 是も痛ましい路上の交通事故と言へやう、制限

外の重量を積でゐたのか夫れとも道路が悪かつたのか其の邊のことは判らないが、車掌が馬方を應援したのは電車疎通の道を開く爲に當然のことであると言ふ人もあらうが、私は通行に悩むでゐる弱者——馬方を援助しやうとする人情美のある車掌に深甚の敬意を表したい、此美はしい車掌の人情美を世の總ての人に求むることは假令不可能であるにしても、セメテ其の半数者でも此車掌の心であつたならば社會政策の重要項目の中に救貧制度と言ふやうな文字を削ることが出来るだらうに、其の多くを見出すことの出来ないのを頗る憾とする。

車掌の死は職務上の致死として待遇されないと云ふことだが、之が電車の運轉に支障ないのに自ら好むで馬方を援助したのなら或は職務規律違反として其の美はしい私情も時に葬つてしまつても可いだらうが、運轉手と協力して運輸事務に従事する車掌が電車の運轉障礙物を除くが爲に馬方に盡した援助行爲が職務上の行爲でないとして取扱はるゝ如きは餘り冷酷な制度と言はなければならぬ。否な純なるべき人情味の發露を抑制することに爲りはすまいか、當局の反省を求めて已まない。